

2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3

早稻田大学図書館
文書27
C 39
1

039

大隈伯談話

明治二十七年甲午日清事件



明治廿七年九月廿日未時

大野百美詩



明治廿七年九月廿日午後二時早稻田大隈
伯チ訪レ新著新詩史一部ヲ贈與誠一曰
此新詩史ハ拙生維新以来我米澤藩及予一身ニ
關係アルノ諸友人ヲ標題一詩ヲ賦シ題字ハ仔
藤總理致詩ハ清國前公使李鍾芳ナリ予カ戊辰
難中尤ニ困難ノ事ハ奥羽諸藩ノ總代トシテ
建白上京ノ節道路梗塞横濱ニ潛伏致レ遂ニ貴
兄ト小松帶刀君ノ外國御用ニテ御庵入ノ英船
号ニ便乗出帆然ルニ七月廿九日遠州灘
ニ於テ颶風ニ會シ已ニ難船ニ及ハントス當時

ノ事ヲ回想スレバ今尚滿身戰慄ス仍而小松及
貴兄ニ對シタル拙作アリ

潛伏蜜船築免身風濤險惡義艱辛

皇天不與使君便遠海同為僉腹人

當時ノ危難御記憶アルヤ在

大隈曰遠洲灘ノ難儀ハ今猶忘レ難シ風濤險惡
ナレニ幸ニ晴礁ニ觸レば覆溺チ免ル所以然
者ハ陸地ヨリ吹来ルアラシニテ沖ヘ流シタル
為ナリ舟モ格外大キクナシ覆溺ノ禍チ免レバ
ルハ實ニ天幸ナリ其時相識リシナラバ御都合

ニモ相成候事アラン小松ハ寛客ノ人ニテ性質
頗ブル灘落薩摩ニハ珍ラシキ出来タル人ナリ
總令船中如何ナル形況アリトモ次而無體ナル
事ハ小松ハ為サヌナリ其年十月小松病死如レ
妻ガ
自分ハ長崎ニ居リ小松ノ危篤ヲ聞テ帰リシ時
ハ已ニ絶命然ルニ小松ノ遺言ニテ外國副知事
ヲ命ゼラレ直ニ小松ノ跡役ニ相成タク自分ハ
小松ノ推舉ハ不知ナリ遠洲灘ノ難船ニテ思ヒ
出タリ丁卯ノ歲神保修理副島次郎等司船士佐
ニ參リシ節非常ノアラシニ出逢フタリ此時ハ

日本人斗リニテ乗リ出シ實ニ非常ノ困難ヲ極
ナシ事アリ

備日清ノ事モ遂ニ大破裂セり前年李鈜芳_忠_此氏即
ニ兩三度来リシニ自分ハ餘程李鴻章ニ告告傳
言シタリ今日屬邦著ノ論議ニテ朝鮮ノ處ハ定
ルモノニ非ズ到底我政府ニ抵觸スルナリト申
聞ケシニ如何ニモ左様ナリト申居レリ

目下朝鮮ヲ治ヘルニハ茅一着手ニ日本ヨリ銀
行ヲ京城ニ立テ國王ノ命ヲ以テ日本ヨリ一千
萬圓モ公債ヲ借_シ夫レニハ相當ノ海港ヲ拵雷

ニ取り第一ニ鉄道生産等ノ業ヲ起シ鉄道ハ釜
山ヨリ京城_{ソウル}、平壠義州マヂ一方ハ釜山ヨリ
元山ヲカケテ咸鏡道ヲ通じ露西亞境マヂ着手
矣得バ他日サベリヤ鉄道ノ成功ニ及シテ朝鮮ヨ
リ我山陽東海鉄道ニ聯絡シテ世界ノ公道ト致
度左候得バ其收入モ不_カ少_シ是ハ實ニ予ノ都
望ナリ且貸付餘金モ兵備生産ノ外ニハ決シテ
浪費セレメズ日本ヨリ之レヲ監督スベシ若シ
疑惑故障ヲ生ゼハ大隱君國王トモニ押シ除キ
義和宮ヲ立テ日本ヨリ一切干渉シテ日清平和

ノ喰ニハ何處ヨリ手^モ着^シ不^可相成様、無之處分致
置度恩存ナリ
目下攻戦中今ノ内ニ基湾ヲ賒取ス可レ他日平
和ニ帰シ美節ハ滿州地方ハ^辻モ日本ノ手ニテ
治ル事難事ナリ如何トナレバ日本、面積二
万方里ナリ盛京黒龍江吉林ノ東三省ハ面積六
萬方里ナリ况ヤ一方ハ支那ニ接シ一方ハ露西
亞ナリ豈^{付醫國}畢竟然日本ノ領分視スルモノナラシ^去
バ勞シテ功業シ地所ハ或ハ台灣ニト一メテ
償金ヲ取ルヲ要ス償金モ澤山ハ取レザルナリ

三億萬ヲ限ルベシ一時ニ三千萬ヲ出サシノ餘
八十ヶ年賦ニ取ルベシ其半ハ軍費ニ供シ其半
ハ軍艦鉄道ニ供ス可シ此度運送船ノ噸數八十
三萬噸ニ相成ル猶軍艦四艘^{ナリ}ヨリ購求トル
ヨシ内一艘ハ甲鐵ナリ其價ハ一千萬円ナリ^{ト判}
此度廣島臨時議會ニテ秘密會ヲ開キ海陸兵十
四萬人ノ出兵ヲ承諾スルヨシ今圓臨時議會ニ
テ要來スル軍資費額ハ一億五千萬円ノ内國債
ナリ此度軍事ニ^ハ左程不用ナラン唯七機ニ鉄
道軍艦等ヲ購求ノ文度ニ消費シ猶三千萬円モ

餘ルベシ此圓ノ一億五千萬ハ東洋文湖ノ廣告
料ナリ歐洲諸國此度初テ亞細亞洲ニ獨立ノ強
國日本アルヲ知ル世界中大手ヲ振^{ワタ}バラル一
ナリ

先年英併混合北京ヲ攻ム時ハ二萬ノ兵ニテ
攻擊シテ償金八百萬テールヲ取ル其時^{ヨリ}露國
有名ノ力仲裁ニ立入り其結果ヲ為入此
度日清ノ間ニ英國ヨリ諸強國ニ仲裁セントテ
試ム佛國之レヲ仔ケ独逸之ヲ仔ケ露國之ヲ仔
ケ米國亦之ヲ仔ケ独逸之ヲ仔ケ伊太利獨^{ワタリ}英國ニ左祖
ム可^ハ以

スル而已日本文明ノ勢力ハ实ニ世界ヲ壓倒セ
ルナリ

今朝鮮ニ一千萬円ヲ利用シテ鐵道ヲ布設スル
其主宰ニ之レ波譯ハ老倦スレに歿止時ハ則チ
之ヲ起ス可^ハ他銀行ハ則チ川田ヲ以テ主宰セシ
ム可^ハ以

今郵船會社長吉川ト日本銀行總裁川田ト實ニ
必要無ニノ器械ナリ唯兩人トモ身體健全チ久
クチ如何セシ

凡リ人ハ蓬命ナリ人ハ冒険ニアラサレバ奇功

ヲ奏シ難レ岩崎杯ハ実ニ非常ノ運命、遭遇セリ七
年ノ基濱十年ノ西南役是ナリ五代ハ決而
岩崎ニ劣ル才器ニ非ス之ニ加フルニ藩闕ヲ以
テ根據トス然リ而シテ遂ニ失敗スルハ運命也
キニエヘナリ今榎本大鳥ハ曾テ大刑ニ當ル可
キ人ニシテ今日ノ政府ニ立ツ陸奥ハ獄ヨリ出
テ外務、主宰トナリ今日ノ大功ヲ建ツ改政時節
運命ナケレバ猶貴藩ノ雲井我カ江藤ノ如シ
我輩維新後ニ十七年ヲ経過ス実ニ昨日ノ如シ
而シテ人事ノ変遷ハ实ニ非常コレ如此ノ世

態ハ空寶前絕後ナルヘシ猶此後二十年ヲ経過ス
ルモ決シテ難事ニアラザルベシ朝鮮駐在ノ井
上ヨリ伊藤ニ申来リ朝鮮鉄道ハ自分ニ委任セ
テレ度自分一手ニテ慮辨致シ度肯ナリ伊藤之
ヲ危ミ未タ許容セズ

堵今田征清、件伊藤モ何レノ邊逃進極トシ何
レノ處ニ終局未ベキハ實ニ配慮ノ様子ナリ
此度ハ五百萬テール位ノ外債ヲ起スハ往濟上妙
策ナリ而シテ其金ハ先方ニ置クヲ可ト又唯我
邦ニテ夫レ丈ヶノ通札ヲ送ルヲ可ト外債モ

低利三分位ナラハ誠ニ可惜モノナリ
 廣島ニテ外債ヲ起ス論題ニ對シ松方ハ同意ニ
 見ヘザルヨシ外債可不可ノ論モ宗旨ノ如シ驛
 遊上ノ事モ誠ニ性我ノ功名ニテ内國運送會社
 ハ三菱ニ凌駕セラレ臺鴻役ノ後中間ニ故障ヲ
^起_年シ共同運輸會社創立セリ共同三菱丸輪シテ
 連・郵船會社ト為ル今日此會社アリテ始而目
 下運輸ノ大業ヲ負擔セラル一ナリ此大役ノ後
 ハイヤテモオデ毛航海ノ業ハ獎勵擴張レテ歐洲マデ
 モ航海セザル可^{アリ}不^可止^{アリ}創立^{アリ}

朝鮮人口ハ一千二三百萬モ有ルベシ之ヲ露國
 ニ附與セハ日本ハ不立ナリ將來ハ清國ヲ誘導
 レテ共ニ協力スベキナリ

今回日清ノ一役東洋政事上竟見ノ衝突トス牙
 山豈島ノ戰ハ我國古習ノ暗殺法ニテ將來歐洲
 ノ本舞臺ニハ禁断ナリ隨分捕虜ヲモ斬殺セシ
 ヨシ他日文明國ノ指原ヲ慚ルナリ

以上ハ大隈伯半日ノ問答ナリ我應^答ハ略シ
 テ大隈ノ教言ヲ畧記シ之ヲ匣底藏シ他日ノ
 紀念ト為入猶大隈^{大隈}ニ二十一年遭難後翌年五

月曜國遊會：被招伯被力健全ヲ祝セ津川而
一振ニテ緩談セリ此又時會ノ到來スル者歟
因記明治九年中井弘龍院ヨリ歐洲視察ノ為、出張節
而國中村樓於別宴ノ間、其席同年者後藤山縣
大隈及山口等ナキ天保九年戊辰ノ生ナリ

明治二十七年五月

宮島誠郎

